

# 第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画に係る「ふり返しシート(令和4年度)」調査報告書 ～令和4年度の住民自治組織の取組みのご紹介～

概要版

市内の住民自治組織から令和4年度での取組みについて「ふり返しシート」で提出いただきました。一例を報告します。

## 第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画(令和3年3月策定)

<p>■目指す方向性: 地域特性を活かした住民主体による持続可能な地域づくりを進め、(令和7年度) 住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、さらに心豊かな暮らしを築く</p>	<p>■計画の柱: 心が通い合う持続可能な住民自治組織づくり 住民の安全・安心な暮らしの確保 住民主体による地域課題解決力の向上 地域の特性を活かした魅力の維持・再発見</p>
---	--

## 単位自治組織(町内会、集落)について

### 第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画での地域ごとの課題

鶴岡地域/247 組織	藤島地域/46 組織	羽黒地域/69 組織	櫛引地域/21 組織	朝日地域/38 組織	温海地域/27 組織
①将来を見据えた持続可能な組織づくり	①各世代が参加しやすい活動に再構築	①将来を見据えた持続可能な組織づくり	①広域コミュニティ組織の検討	①将来を見据えた持続可能な組織づくり	①健全な財政運営に向けた検討や組織の見直しによる役員等の負担軽減
②活動の担い手となる人材の確保と育成	②将来を見据えた持続可能な組織づくり	②多様な人材の活用と役員等の負担軽減	②住民自治組織等の理解促進と事業の見直し	②住民による魅力的な事業づくり	②将来を見据えた単位自治組織の検討
③情報発信と会員確保	③広域コミュニティ組織との連携による事業内容の見直し	③多世代が交流し、あいさつを交わし合える地域づくり	③次代を担う人材育成と後継者対策	③安全安心な地域づくりのための組織づくり	③安全で安心して暮らせる防犯・防災対策の推進
④地域課題の解決に向けた取組の実施	④広域コミュニティ組織と一体となった安全・安心な体制づくり	④お互いを見守り支え合う安全で安心な地域づくり	④安全・安心な地域の構築	④単位自治組織の財産管理や環境整備事業の見直し	④次代を担う若者や子どもたちを取り巻く環境づくり
⑤災害に備えたコミュニティづくり	⑤地域福祉を近隣の輪で支える体制を再構築			⑤希薄化した連帯感の再構築	⑤高齢者等福祉の視点に立ったコミュニティづくり
⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり	⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育む環境づくり				⑥広域コミュニティ組織の検討

### 「ふり返しシート」回答から一部抜粋 (括弧内は、回答いただいた組織の地域名と世帯数)

<p><b>組織づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・役員の負担軽減の為、役員の運営マニュアル(各事業の明細書)を作成した。(鶴岡・30)</li> <li>・5年度から若妻会と婦人会を統合し、女性部を発足。体制の強化を図った。(鶴岡・15)</li> <li>・役員に町子ども会保護者会から小、中各1名の2名が毎年選任され町内会活動を実施している。将来町内会役員として世代交代に繋がるようにしている。(鶴岡・210)</li> <li>・町子供会の会長(小・中)には町内会の役員になって頂く仕組みで、そのまま役員に留まってもらえる方が殆どとなっている。(鶴岡・770)</li> <li>・現役世代が参加できる役員体制の構築。(藤島・23)</li> <li>・仕事をしながら自治会長が務められるように業務を分担・協力した。(温海・74)</li> <li>・住民全員が役員を経験できるように自治会の編成方法を検討した。(羽黒・44)</li> <li>・小中学校の賛助会費集金を集落会計から一括支出し、PTA評議員の負担軽減を図った。(羽黒・74)</li> <li>・年間複数回行っている集落会費集金を年度一括払可として集金人の負担軽減を図った。(羽黒・35)</li> <li>・役員候補者育成も兼ね4つの専門部を設け、それぞれの部長、副部長による事務局体制を作った。(櫛引・177)</li> <li>・事業の見直し検討に取り組み、自治公民館事業は自治会事業に継承し、組織一体化により、役員の数減少と報酬を見直し、自治会費の減額にもつなげた。(櫛引・177)</li> <li>・隣組の再編を行い、組ごとの人数差を縮小し、組数を少なくすることで、役員選出の負担を減らした。(朝日・52)</li> <li>・この自治会だけで活動はできず、他地域に住む方の力をかりて公民館主事を他集落から迎えた。(温海・6)</li> </ul> <p><b>健全な財政運営・会費の見直し</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単身高齢世帯の集落会費を減額した。(羽黒・11)</li> <li>・貯蓄型集落会費とならないよう、事業支出に見合う年会費として減額を図った。(羽黒・34)</li> <li>・公民館の将来的な改修や修繕を計画的に行うための施設運営積立てを行った。(朝日・66)</li> <li>・住民負担軽減のため、自治会費を減額。各報酬も2割カットを実施。現状に適合した組織改革を行い、役員を1名減らした。但し、各行事の予算は減らさないで現状維持。(温海・36)</li> <li>・健全な財政運営を図るため、補助的交付金の交付手順の改善に努めた。金額の妥当性の検討を図った。(温海・396)</li> </ul> <p><b>語らいの機会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣組長会を開催し、各組の状況や要望、情報を寄せていただき、課題や問題点の解消につなげた。(鶴岡・319)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣組長と役員の間合議を3回開き少人数での自由討論を行った。(鶴岡・300)</li> <li>・振興会の地域ビジョンづくりに向けた自治会ワークショップの開催によって、普段の寄り合いとは違った多くの参加による意見交換を行うことができた。(朝日・8)</li> <li>・毎月回覧版で集落内の話題や地域外の動きを周知し、集落自治への意見収集を行った。(羽黒・22)</li> </ul> <p><b>情報の伝達</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会行事や集会の案内をLINEで行い、回覧等を極力減らした。ただし、スマートフォンを持たない高齢者への対応が課題である。(朝日・26)</li> <li>・役員間の会議連絡、議事録、災害箇所等の画像の共有化をLINEやmailで行うことによって、用紙の削減や負担軽減を図った。(温海・44)</li> <li>・役員同士LINEでやり取りし、会議の日程調整などがスムーズになった。(羽黒・74、温海・31)</li> <li>・隣組長への情報伝達に「らくらく連絡網」を実験的に使用した。(鶴岡・300)</li> <li>・会長専用携帯電話を取り入れ、住民の声を積極的に受け入れた。(温海・74)</li> </ul> <p><b>人材の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若者の役員登用に務め、組織の若返りを進めている。(羽黒・46)</li> <li>・各部に若手を登用、新しい企画が発案された。(鶴岡・122)</li> <li>・若い人材から総会時に議長や書記などを担当して経験を積んでいただいた。(鶴岡・63)</li> <li>・理事会に若い住人を呼んで、今後の活動の内容などの意見交換を実施した。(鶴岡・59)</li> <li>・子供会役員との話し合いを通し、若い世代の考え方を理解するようにした。(鶴岡・300)</li> <li>・役員は高齢者が多い為、公民館主事30代も住民会役員と一緒に行事運営に関わるようにした。(鶴岡・42)</li> <li>・夏祭りの企画・運営を若手実行委員会(30~50代)に任せ、今までは大きく異なる夏祭りを実現できた。(鶴岡・320)</li> </ul> <p><b>人のつながり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これからの町内会活動の重要活動の一つとして、隣組内でのコミュニティを更に深めて助け合い精神を強化するために隣組会議の推進に取り組む。(鶴岡・330)</li> <li>・高齢者対象に毎月10日にお茶のみサロンを開催し、運動やお茶を飲みながら親睦を深めている。(藤島・80、54)</li> <li>・住民の高齢化に伴い、活動や事業のあり方に工夫が必要。気軽に参加できる集いの場的な行事を増やし、交流の場を確保したい。(鶴岡・54)</li> <li>・育成会、老人クラブによる町内会一斉清掃。(藤島・16)</li> <li>・集落美化活動、花いっぱい運動など多世代であいさつ話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>し合える場づくりに取り組んだ。(羽黒・34)</li> <li>・新年祝賀会を昨年度に引き続き実施できた。若い世代の参加が多かった。(藤島・51)</li> <li>・区長に集落内の情報が集まる仕組みを検討した。(羽黒・22)</li> <li>・集落の現状を踏まえ持続可能な行事の在り方を精査・見直し・改善を行った(祭事の持ち方、講の休止、複数行事の同日開催等)。(羽黒・20)</li> <li>・毎年行っている子供から高齢者までが集う交流会について、コロナ禍のため短時間開催等、規模を縮小し、工夫して行うことで、継続開催を維持し、幅広い年代の交流を図った。(朝日・36)</li> <li>・転入してきた住民のコミュニティ参画を促すため、事業活動への積極的な参加を呼び掛けた。(羽黒・45)</li> <li>・子供会行事・祭りに集落役員らも参加し交流を図った。(羽黒・90)</li> <li>・伝統芸能の継承活動の再開。(温海・36、157、33)</li> </ul> <p><b>見守り・支え合い</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1人暮らしの高齢者宅及び町内の消火栓、ゴミステーションの除雪を町民で役割分担して行った。(鶴岡・55)</li> <li>・集落会費徴収時の声掛けや回覧板・広報配布時に高齢者宅等の見守り・支え合いを実施した。(羽黒・46)</li> <li>・第4地区全体で高齢者に対して月1回あたたか弁当を届けている。民生委員、あたたか弁当スタッフが頑張っている。鼠ヶ関公民館調理室で弁当を作っている。(温海・396)</li> <li>・日頃の近所付き合いや支え合いのなかで高齢者世帯の除雪を手伝っている。(羽黒・27)</li> <li>・高齢者世帯・独居老人を対象に雪降ろし協力隊を結成し、協力体制をつくった。(温海・74)</li> <li>・単身の高齢者世帯について自治会作業や総会への出席等を免除することとした。(温海・13)</li> </ul> <p><b>子供・若者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子供が少なくなったため、子供会育成会の事業である春と秋の資源回収を自治会と合同で実施した。(朝日・33)</li> <li>・駅前花壇の花植えと水やりを、小中学生と保護者、自治会青少年部員が毎年継続して行っている。(温海・95)</li> <li>・地域の伝統文化を知り、理解を深めてもらうため、子供達と「臼を使った餅つき」と「ナン団子作り」を実施した。(温海・66)</li> </ul> <p><b>防 災</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の災害時避難行動要支援者支援制度に基づき、各名簿提供に同意した要支援者の個別避難計画を策定した。(鶴岡・100、藤島・225)</li> <li>・地域座談会を開催し、市職員を講師に災害時避難行動要支援制度を勉強した。住民には要支援を希望する方や積極的に支援を希望する方もあった。(鶴岡・59)</li> </ul>
---	---	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災訓練を実施し、消防団、女性の会、老人クラブ等様々な方々の役割分担が果たせた。(藤島・28)</li> <li>・町内会自主防災計画を作成した。(藤島・51、温海・66)</li> <li>・地域防災対応マニュアルを策定し、集落全戸に配布した。(羽黒・77)</li> <li>・自主防災計画・組織体制の見直しを行った。(藤島・225)</li> <li>・集落内道路の危険箇所の確認や公園遊具の点検、整備を行った。(羽黒・19)</li> <li>・災害時の地区民の安全を確認するための世帯毎の安否確認シートを作成し、毎年シートのメンテナンスを行うとともに、防災の日にあわせ安否確認訓練を行った。(櫛引・57)</li> <li>・自主防災会による空き家などの予防査察、豪雨による避難訓練、高齢者等の避難確認訓練、小学生による火の用心活動(温海・79)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民が集まる祭や敬老会等で防犯・防災への注意喚起を行った。(温海・6)</li> <li>・自主防災組織の機能や役割について協議を行い、災害備蓄品の補充を行った。(温海・44)</li> <li>・市の防災アドバイザーによる「防災サポート出前講座」を活用し、研修会を実施した。(温海・66)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家が多く、問題があるたびに所有者に連絡対応をしているが、連絡先等不明なものについては市に相談しながら対応している。(朝日・8)</li> </ul>
<b>広域コミュニティ組織の検討</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区の総会において、広域コミュニティ組織設置に向けての区長会提言について説明した。(櫛引・81)</li> <li>・自治会と公民館の組織一体化の取り組みの中で、福祉、防災活動が重視される状況について、自治会運営委員会で共有する場を作った。(櫛引・177)</li> <li>・今まで学区で区切られた地域での交流を重ねてきたが、摩耶山・小国川流域の親交・交流を深めるために親睦会を開催。大盛況だった。(温海・36)</li> </ul>		

## 広域コミュニティ組織について

### 第2期鶴岡市地域コミュニティ推進計画での地域ごとの課題

鶴岡地域/21組織	藤島地域/5組織	羽黒地域/4組織	櫛引地域/なし	朝日地域/3組織	温海地域/なし
<ul style="list-style-type: none"> <li>①時代に調和する運営や事業展開と持続可能な組織づくり</li> <li>②「地域ビジョン」策定など地域課題解決に向けた取組の強化</li> <li>③コミュニティ防災のまちづくり</li> <li>④単位自治組織の機能補完</li> <li>⑤地域資源を活かしたコミュニティビジネスの検討</li> <li>⑥「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育て環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地区自治振興会を核とした活動の推進</li> <li>②持続可能な運営方法の確立</li> <li>③地区内外の団体との連携強化</li> <li>④福祉と防災で新たな役割を確立</li> <li>⑤「ここで暮らしたい」と思えるような郷土愛を育て環境づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①身近な地域の居場所づくり</li> <li>②単位自治組織と連携した事業体制と新たな人材育成</li> <li>③郷土愛を育む学びの場と地域の魅力を発信できる仕組みづくり</li> <li>④自主防災組織と連携した防災の体制づくり</li> <li>⑤安心して暮らし続けられるコミュニティづくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※単位自治組織の関連項目(再掲)</li> <li>①広域コミュニティ組織の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①住民理解の促進と単位自治組織への支援</li> <li>②人材の確保に向けた検討</li> <li>③希薄化した連帯感の再構築</li> <li>④安全安心な地域づくりのための組織づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>※単位自治組織の関連項目(再掲)</li> <li>⑥広域コミュニティ組織の検討</li> </ul>

### 「ふり返しシート」回答から一部抜粋 (括弧内は、回答いただいた組織の地域名)

<p><b>持続可能な組織</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の専門部に小学校PTAの会長、副会長が所属しており、コロナ禍でも各事業をほぼ行い、活動を共にし、地域とのつながりを深めることができた。PTAも主体的に動いており、このつながりを大事にしていきたい。(鶴岡)</li> <li>・二世帯住宅や新興住宅の会員が増えてきたこともあり、自治会費の区分の設定や消防団への交付金の水準、自治会収支構成等の情報共有を図り、自治会運営の参考としてもらった。(鶴岡)</li> <li>・地区内の各種負担金の見直しを図り、適正な額の提示を行い、各町内会の負担軽減につなげた。(藤島)</li> <li>・東北公益文科大学、株式会社プロトソリューションと連携し、朝日地域の情報を発信する特設サイト「朝日共創プロジェクト」を運営し、地域の情報発信を行った。(朝日)</li> <li>・自治会役員のほか福祉、防災、地域ビジョンなど各担当部門でLINEグループをつくり、連絡等のペーパーレス、迅速化と情報発信・共有を図った。(鶴岡)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い年齢層から参加いただき、地域への思いを語り合い、共有することができた「地域語り合い」では、職員や地区公民館連絡協議会役員がテーブルファシリテーターを経験することで、地域の人材育成を図った。(朝日)</li> <li>・生涯学習推進員の選出を従来自治会輪番制としていたが、やる気のある若手をお願いすることとした。(朝日)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難行動要支援者の個別避難計画の作成(藤島)</li> <li>・集落自主防災会、自治振興会地域安全部員、消防団が参加して地区防災訓練を実施した。(羽黒)</li> </ul>
<p><b>地域ビジョン策定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ビジョンの完成報告会を開催し、住民等への周知を図った。鶴岡地域まちづくり未来事業でSNS教室や地域資源選定を行うとともに、環境美化活動やフリーマーケット等の実施計画づくりに取り組んだ。(鶴岡)</li> <li>・地域ビジョン策定の取組みを通じ、地域の魅力、後世に残すべきものを整理・確認することができたり、地元環境の良さを再認識し、環境維持・改善へ取り組む機運が高まった。(羽黒)</li> <li>・地域ビジョン策定に向けて、自治会ごとのワークショップや策定委員会を開催した。人口について、地域の近未来を数値化することにより、我が事として受け止めることができたように思う。事前に宿題を課し、地域課題シート等に記入してもらうことで、積極的な意見交換の場をつくることができた。各自治会からの策定委員には、女性を必ず選出してもらうようにした。(朝日)</li> </ul>	<p><b>世代間交流</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世代、立場を超えて地区について語り合うワークショップを行った。課題の解決に高校生からも参加していただき、第一歩としてフォトイベントを開催することとなった。(鶴岡)</li> <li>・コミセンの事業で幼稚園や小学校児童と高齢者が交流する機会を設け、子どもが地域の大人との関わりを大切に感じられるように取組んでいる。(鶴岡)</li> <li>・小学生を対象とした事業を年6回、保護者や地域の各団体の協力を得て実施、多世代との交流も企画、実施。(藤島)</li> <li>・自主運営の放課後こども教室を毎月開催し、地元の実業家の協力を頂きながら、郷土の偉人について学んだり、昔遊びやコマ作り、押し花などを行い、世代間交流を深めた。(藤島)</li> <li>・外部団体と連携し月1回サロンを開催。老若男女問わず世代を超えた親睦と交流の場を提供した。(羽黒)</li> <li>・小学校や外部団体と連携し、農作業を通じた世代間交流事業を開催した。(羽黒)</li> </ul>	<p><b>除雪</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・持続可能な共助のための組織として、有償の除雪ボランティア隊を編成した。(鶴岡)</li> <li>・社会福祉協議会の助成制度を活用し、おだかいさま除雪支援活動を実施し、8名の支援者により、10世帯の玄関前除雪を行った。(朝日)</li> <li>・市補助金を活用し、地域で支え合う玄関前除雪支援事業を実施し、自力除雪が困難な高齢者世帯の玄関前除雪を行うことで、安心して過ごせる地域づくりを推進した。(朝日)</li> </ul>
<p><b>情報発信</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報紙の他、SNSを使い、地区の情報やコミュニティ活動の状況を発信した。(羽黒)</li> </ul>	<p><b>支えあい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域版おだかいさま見守りネットを見直し、普段の暮らしの「見守り」手引きシートを作成し全戸配布した。(鶴岡)</li> <li>・高齢者の「買い物支援」「通院支援」を、どういう形・方法がいいのかを地域ビジョン推進チームにて検討に入った。(鶴岡)</li> <li>・高齢者見守り対策として、民生委員の協力のもと「困りごと・何でも相談カフェ」等を自治会単位で実施した。(鶴岡)</li> <li>・放課後子ども教室を開設し、地域のスタッフが子どもたちへ様々なプログラムを通して、地域に愛着を持てるようにサポートした。(鶴岡)</li> </ul>	<p><b>新たな取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集落区長協力のもと、地域通貨導入検討事業の実証実験を実施した(敬老祝品として配布)。(羽黒)</li> <li>・地区住民の声を反映した地域ビジョンの進捗状況を報告し、今後の進め方について話し合いの場を持った。(羽黒)</li> <li>・地域ビジョン策定に向けた研修会を開催した。地区の現状と課題、目指すまちの姿を共有し、次年度計画の準備や仕掛けづくりができた。(羽黒)</li> </ul>
<p><b>後継者の育成</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代で結成したグループで様々な企画を実践する中で、地域の活性化に向けた意識やメンバー同士の間でもできてきている。楽しくをモットーに今後もさらに仲間を増やし、地域づくりに向け趣向を凝らした事業を応援していきたい。(鶴岡)</li> <li>・運営委員と次世代グループリーダーとの意見交換の場を設け、連携強化を図った。(鶴岡)</li> <li>・地域部を事務局とし、東北公益文科大学地域共創コーディネーターと連携しながら若者語らいの場ありのまま未来プロジェクト「WaGeSho」の企画運営を行った。(朝日)</li> </ul>	<p><b>防 災</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「日めくり防災カレンダー」を作成し、地区全世帯へ配布した。地区の写真や背景に、地区の言葉でいざというときの行動を意識づけさせている。(鶴岡)</li> <li>・防災研修会の開催、各町内への防災アドバイザー制度の情報提供など、積極的に各町内会での防災組織編成を促した。(鶴岡)</li> <li>・年2回の「津波情報伝達訓練」を実施した。また、例年どおり、福祉員協力員や自治会役員の協力を得ながら「防災福祉マップ」の更新を行った。(鶴岡)</li> </ul>	<p><b>連帯感の再構築</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5地区で開催した「地域語り合い」では、中学生から高齢者まで幅広い年齢層の方に参加いただき、地域への思いを語り合い、共有することができた。(朝日)</li> <li>・朝日中学校と連携した「週末塾」を開催することで、高校受験に向けた学びの機会を充実させた。(朝日)</li> </ul>